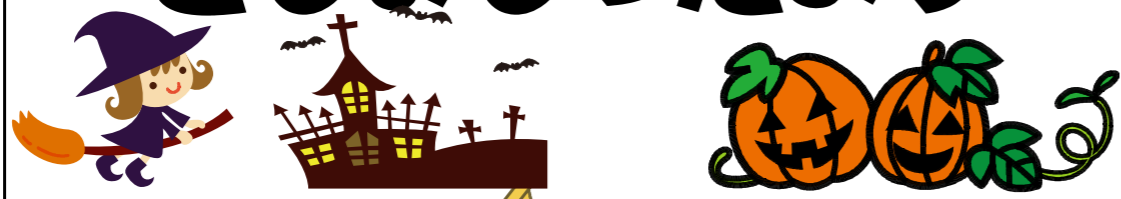


10月

としよしつだより



やってきました読書の秋

志布志市立野神小学校



日が暮れるのが早くなり、夜を長く感じる季節になりました。

秋といえばスポーツ、食欲、芸術、そして「読書の秋」ですね。秋は気候がおだやかな上に夜が長く、本を読むには最もよい季節になります。でも、この夏からはアジア大会が開催されたり、10月7日から鹿兒島国体が開催されたりしています。まずは「スポーツの秋」を楽しんで、すぐに過ぎてしまうこの重要な四季を楽しみましょう。次は「読書の秋」です。「自分のお気に入りの一冊」を見つけるために、本をじっくりと選べる時間を作ることができるといいですね。新刊の貸し出しも始まっていますので、いろいろな本を読んで、心に響く素敵な本に出会ってほしいです。

2023年 第77回読書週間
10月27日(金)から11月9日(木)
今年の読書標語
『私のペースでしおりは進む』



読書の秋

読書週間の目的は、読書の楽しさや大切さを多くの人にわかってもらうことにあります。むずかしく考えることはありません。『本に親しみ、楽しもう!という2週間』と思ってください。何か特別なことをすることは無く、思い思いに読書を楽しめばそれでいいのです。

「この本最高!この本みたいな話がもっと読みたい!」という本に出会ったら、きっと【今までとは違う自分に】変わるかもしれませんよ!

図書室では10月30日・31日に図書委員会から「トリック・オア・トリート」を合い言葉に手作り折り紙(おばけキャラクター)をプレゼントします。ぜひ、来てくださいね!



「秋を表したり、秋によく使うことばを集めてみました。」

☆灯火親しむ(秋はすずしく夜も長いので、あかりのもとで読書をするのに適している。)

☆天高く馬肥える秋(秋は、空が澄みわたって、馬は肥えてたくましくなる。)

☆夜長(日暮れが早くなり、夜が長いこと。)

☆暑さ寒さも彼岸まで(彼岸は春分の日と、秋分の日を中心として前後七日をいい、余寒の厳しさも春の彼岸になれば衰え、残暑の暑さも秋の彼岸になれば衰えて涼しくなる、彼岸は季節の変わり目である。)(図書室の本で探してみてね!)

☆新刊の紹介(あたらしい本の紹介)

題:銭天堂19巻



大人気の本です。六条元治教授が「紅子さん」に復習するようです。蔵木さんを誘い復習の作戦をたてますよ。どうなるでしょう?

題:がっこうにまにあわない



いつものみちで大冒険!午前8時までには学校に着かななくてはならないでも...皆さんの通学路にも思いもしない出来ごとはありませんか?

題:化石のよぶ声がきこえる



この主人公は、他のみんなが気づかないすてきな物を見つける天才、ある日見つけたのは、何千年も前の恐竜の化石!この発見が人生を大きくかえる話です。

題:みんなのためのルールブック



人を思いやる心、自分を大切にすることを育てます。「あたりまえだけど、とても大切なこと」を説明してあり、わかりやすく教えてくださいよ!おすすめですよ!

☆図書委員会からのおすすめ本の紹介

<p>十年屋</p> <p>他人から見たらラクタでも、自分にっては色文字になくしたくない子会々ならぬ大きな刀なものを十年間、まほうであずかてくれる不思議なお店「十年屋」まほう使いとしつねのカラシのもとに、今日はどんなお客さんがやってくるでしょう。</p> <p>芝生実莉愛:作</p>	<p>ありがみ の本の紹介</p> <p>毎日をかざろうたのしい折り紙遊びの世界を広げよう</p> <p>かんたんなおりがみなのでぜひくってみてください。</p> <p>持田美乃:作</p> <p>図書委員会持田美乃</p>	<p>麦生米生卵</p> <p>本の紹介</p> <p>ななじみの早口言葉にのせて描られる、楽しくてちょっぴりなつしい結婚式の1日。</p> <p>生麦生米生卵……</p> <p>李も桃の桃のうち</p> <p>米山明歩:作</p>	<p>「浪沢栄一と一万円札物語」</p> <p>浪沢栄一は日本初の第一国立銀行を開いた。そして損害保険会社、金運会社、カネや電気会社を作った。天才が読書を中日時代、本を読むことが好きで、おもしろい本をたくさん読んでいた。</p> <p>浪沢栄一 1900</p> <p>図書委員会 竹之内諒太 竹之内諒太:作</p>
---	--	--	--